

ノスリ

Buteo buteo japonicus (Temminck et Schlegel)

【選定根拠】 a 分布域の一部で個体数が減少

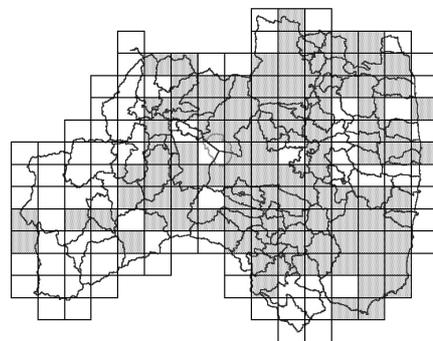
【形態】 トビより少し小さく、よく似ているが、翼の幅が広く、尾は短くて円尾で下面に細い横帯がある。飛翔中の翼の下面は淡褐色で翼角に黒斑がある。顔に褐色の過眼線と顎線がある。背から上面は淡褐色から暗褐色。体下面は白色からパフ色で、脇や下腹に暗褐色の斑がある。ふ蹠は毛が無く、虹彩は暗色。口笛のように「ピーー」と鳴く。

【分布】 北海道・本州・四国で繁殖するほか、冬鳥として全国に渡来する。ユーラシアに分布し、冬は南に渡るものもある。

【県内の分布、生息状況】 全県内に広く分布する。平地から山地の林や草原、農耕地、牧場、河原などでみられ、林の大木に枯れ枝を積み重ねて巣を作り、毎年使用することが多い。冬期は鉄道沿線の電柱などの上にいるのをよく見かける。ある地方ではマグソダカとかヘンシロウと呼ばれている。一部は渡りをする。

【生息に影響を与えている要因】 森林伐採 里山開発

【特記事項】 営巣場所および採餌場所となる里山の自然環境の保全が望ましい。



サシバ

Butastur indicus (Gmelin)

【選定根拠】 b 分布域の一部で生息条件悪化

【形態】 ハシボソガラス大のタカ。雄は頭部が灰褐色で後頸からの上面、胸は茶褐色。喉は白く、中央に1本縦斑がある。腹から体下面は白く、太い茶褐色の横斑がある。虹彩は黄色。眉斑は不明瞭。雌は白い眉斑が明瞭で、頬の灰色部は狭い。胸から腹にかけて淡褐色の横斑がある。暗色型は全身黒褐色。

「ピックイー」または「キンミー」とよく鳴く。

【分布】 本州・四国・九州に夏鳥として渡来、南西諸島では越冬する。秋の渡りのタカ柱は有名。中国東北部などでも繁殖する。

【県内の分布、生息状況】 南会津と阿武隈山地北部が生息確認の空白地になっているほかは、全県的に夏鳥として確認されている。低山や山地の林で繁殖している。タカの中ではトビと同じくらいよく鳴くので、鳴き声だけでも確認できる。

【生息に影響を与えている要因】 営業地近辺の森林伐採 宅地造成 里山荒廃

【特記事項】 ヘビや両生類・昆虫類・鳥の巣立ち雛やネズミなどを食料にするため、適した採餌場所となる里山の保全が望ましい。

